

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.6

TEL:018-860-3410
FAX:018-860-3834

草丈は長く、茎数は多い。生育ステージの確認を！

1 気象経過と生育状況

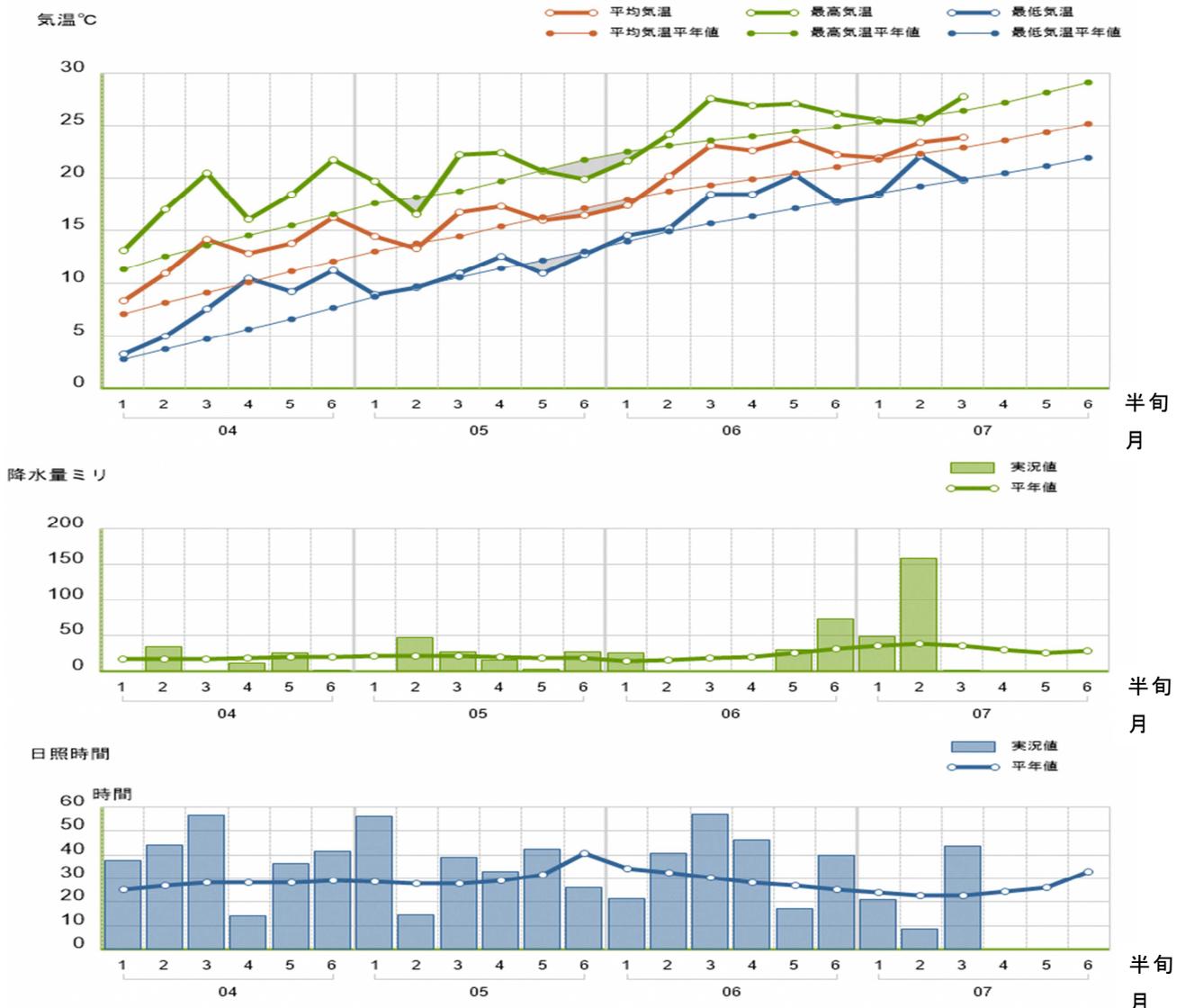


図 気象経過と平年値（アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用）

〈気象と生育の概況〉

7月2半旬は大雨により降水量が多く、日照時間が少なくなりましたが、その後天気は回復し、7月3半旬の降水量は少なく、日照時間は多くなりました。

7月16日の定点調査結果（あきたこまち）は、草丈は72.8cm（平年比109%）と長く、茎数は528本/m²（同比109%）と多く、葉数は12.1葉（同差+0.7葉）と多く、葉色は41.8（同比101%）と平年並の状況でした。

全ての調査ほ場では、幼穂形成期を過ぎていたことから、各ほ場の生育ステージ（幼穂長や出葉状況）に合わせた栽培管理を徹底してください。

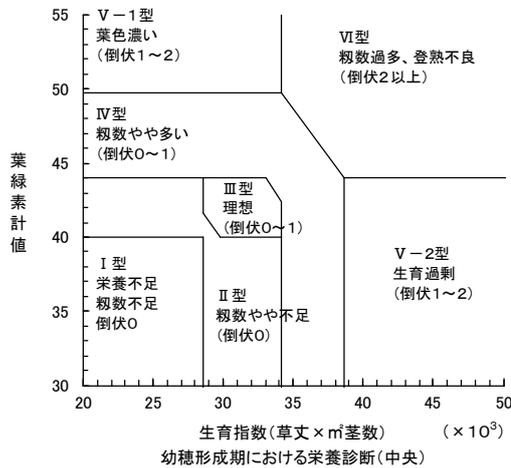
表 水稻定点調査結果（7月16日実施）

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
草丈	72.8cm	109%	101%
茎数	528本/m ²	109%	107%
葉数	12.1葉	+0.7葉	+0.6葉
葉色 (SPAD)	41.8	101%	99%

※管内定点ほ場 10 地点の平均値（あきたこまち）

2 あきたこまちの栄養診断(幼穂形成期・減分期追肥の判断)

- ① ほとんどのほ場で幼穂形成期(幼穂長 2 mm)を過ぎていると考えられることから、速やかに生育・栄養診断を実施してください。
- ② 診断結果を基に、倒伏に注意しながら葉色の急激な低下を招かないよう適切な追肥を実施します。
- ③ 幼穂形成期の生育型がVI型に該当する場合は、緊急処置として倒伏軽減剤の使用を検討します。肥効調節型肥料を基肥などで使用した場合、追肥は施用済み窒素分量などを考慮し、慎重に判断します。



生育型	窒素追肥量 (kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I型	2kg	2kg
II型	2kg	2kg
III型	ムラ直し1kg	2kg
IV型	なし	2kg
V-1型	なし	ムラ直し1kg
V-2型	なし	ムラ直し1kg
VI型	なし	なし

注) 目標収量 570kg/10a、あきたこまち

表 幼穂形成期(7月15日頃)と減数分裂期(7月25日頃)における「あきたこまち」の理想生育量(県中央地域、稲作指導指針より)

幼穂形成期	草丈	茎数	葉数	葉色(SPAD)	生育指数 ^{※1} ($\times 10^3$)	栄養診断値 ^{※2} ($\times 10^5$)
	(cm)	(本/m ²)				
理想値	61	515	10.7	42	31.4	13.2
上限値	63	559	10.9	44	34.2	14.5
下限値	58	471	10.5	40	28.6	11.9
減数分裂期	草丈	茎数	葉数	葉色(SPAD)	生育指数 ^{※1} ($\times 10^3$)	栄養診断値 ^{※2} ($\times 10^5$)
	(cm)	(本/m ²)				
理想値	70	491	11.9	38	34.4	13.1
上限値	72	527	12.2	39	37.0	14.2
下限値	69	456	11.7	36	32.2	11.9

注) 生育指数は草丈×茎数、栄養診断値は草丈×茎数×葉色(SPAD)で算出

3 今後の水管理

- ① 幼穂形成期から出穂までの水管理は、稲体の活力維持のため間断かん水が基本となります。中干しが十分に実施できなかったほ場では、落水期間が長めの間断かん水を実施し、田面の硬度を確保します。
- ② 減数分裂期は出穂の10~12日前頃ですが、この時期は低温に弱い時期なので、日平均気温20℃以下(最低気温17℃以下)の低温が予想される場合は、深水管理(水深15cm以上に保つ)を行い、幼穂を保護します。

4 病害虫防除対策 農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(7月予報)より

① 斑点米カメムシ類 (予想発生量:多い)

- ・ 水田内に雑草が多発すると、アカスジカスミカメの水田内への侵入が助長されます。発生雑草の草種や生育程度を観察して、適切な中・後期除草剤を選択し、雑草防除を徹底しましょう。
- ・ **稲の出穂15～10日前までに農道や畦畔、休耕田等の草刈りを地域で一斉に数回行いましょう。**
- ・ 水田畦畔刈り込み軽減剤や水田畦畔刈り込み代用剤を散布すれば、40～50日の抑草効果が期待できます。

※補足 **カメムシ発生量が多い場合、薬剤防除は出穂期 10 日後頃と同 24 日後頃の 2 回散布が基本となります。**このため、散布計画の策定と薬剤の準備を早めに行ってください。

表 斑点米カメムシ類防除のための雑草処理体系

	6月		7月			8月			9月	
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
本田防除						1回目防除 ←→ 出穂期10日後頃	2回目防除※ ←→ 出穂期24日後頃			
農道・畦畔	←→					草刈り			←→	
法面・休耕田	←→ 草刈りの徹底			草刈り禁止					←→ 草刈りの徹底	

出穂15～10日前までに数回行う。水田内のイネ科、カヤツリグサ科雑草の穂はアカスジカスミカメの発生を助長するため除草対策を徹底する。

1回目の茎葉散布剤の散布7日後までに草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。

稲の収穫2週間前以降から草刈りを実施する。

※ 出穂したホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場やイネ科雑草が主体の牧草地・休耕田等に隣接するほ場、発生予察情報に基づき多発が予想される場合は出穂期10日後頃と同24日後頃の2回防除を必ず実施する。

② 葉いもち(予想発生量:平年並)

- ・ **ほ場を巡回し、余り苗や本田での発病状況を確認してください。**生育が遅れているほ場では肥効が遅れ、7月以降稲体の窒素濃度が高まり、いもち病への抵抗力が低下するので特に注意しましょう。
- ・ **余り苗はいもち病の発病の有無にかかわらず、直ちに泥の中に埋めて処分してください。**余り苗で発病が確認された場合、発病ほ場及び周辺ほ場では今後の発病状況に注意します。
- ・ これまで葉いもち防除剤を使用していない場合は、直ちにオリゼメート粒剤を10a当たり2kg、またはルーチン粒剤を10a当たり1kgを散布してください。
- ・ **余り苗や感染苗の持ち込みからの伝染を確認した場合は、直ちにブラシン剤またはノンプラス剤の茎葉散布を行ってください。**その後、必要に応じてビーム剤を追加散布しましょう。

③ 紋枯病(予想発生量:多い)

- ・ **穂ばらみ期～出穂期の発病株率が15%を超える場合は、出穂直前～穂揃期にバシタック剤、バリダシン剤、モンカット剤、モンセレン剤のいずれかで防除しましょう。**その際、薬剤が株元に到達するように散布してください。
- ・ 粒剤を使用する場合は、前年多発したほ場で本病を対象とした育苗箱施用剤を使用していないほ場に限り使用します。散布時期はモンガリット粒剤が出穂20～10日前、リンバー粒剤が出穂15

～5日前です。

- ・ 粒剤は湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間は水を入れないでください。また、周辺環境に配慮し、散布後7日間は落水、かけ流しをしないでください。

④ 稲こうじ病(予想感染量:やや多い)

- ・ 前年多発したほ場では出穂20～10日前に、ドイツボルドーA、ボルドー、トライフロアブル、Zボルドー粉剤DL、モンガリット粒剤のいずれかを散布してください。
- ・ ドイツボルドーA、ボルドーは高濃度で散布すると薬害を生じやすいほか、Zボルドー粉剤DLは高温時には薬害を生じやすいので夕方の涼しい時に散布しましょう。
- ・ 粒剤は湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間は水を入れないでください。また、周辺環境に配慮し、散布後7日間は落水、かけ流しをしないでください。

5 異常気象対策(高温、大雨)

① 高温対策について

- ・ 予想される向こう1ヶ月の天候(7月11日、仙台管区气象台)では、高い確率が80%となっており、特に期間の前半は気温が高くなる可能性があると予報されているほか、早いところでは7月中に出穂する見込みであるため、高温への注意が必要です。
- ・ 出穂当初は水を多く必要とする時期のため、特に出穂後10日間は土壤水分が不足しないよう注意してください。
- ・ 最高気温が30℃以上となる場合は、用水の確保が可能であれば、かけ流しを行います。かけ流しかん水が困難な場合は、落水期間の短い間断かん水やかん水を日中に行うなど水分補給と地温の低下に務めてください。
- ・ 落水時期は、出穂後30日以降としてください。

② 大雨対策について

- ・ 冠水・浸水した場合に速やかに排水されるよう、事前に排水溝や排水路の点検を行ってください。
- ・ 大雨により水路が増水している場合は、危険ですので絶対に近づかないでください。

6 熱中症対策

過去10年間の全国における農作業中の熱中症による死亡事故は、その8割が7～8月に集中しています。次の事項を参考に、熱中症対策を徹底してください。

① 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行きましょう

- ・ 特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう。

② 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう

③ 熱中症予防グッズを活用しましょう

- ・ 屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなど。

④ 単独作業を避けましょう

- ・ 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう。

◇次号は7月26日頃の予定です。